

○横尾内閣官房知財事務局局長 ただいまから「『クールジャパン官民連携プラットフォーム』アドバイザリーボード」を開催いたします。

本日、司会を務めます、内閣官房知財事務局長の横尾でございます。

きょうは、お忙しい中、御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

きょうは、メンバーのうち、生駒さん、亀井さん、佐浦さん、JTBの高橋さん、トム・ヴィンセントさん、中村先生が所用により御欠席です。中村先生の代理として、CiP協議会参与の菊池様に、御出席をいただいております。共同会長会社から、パナソニックから倉澤さん、ドワンゴから甲斐さんに、御出席をいただいております。

それでは、開会に当たりまして、島尻クールジャパン政略担当大臣より、御挨拶を頂戴いたします。どうぞよろしく願いいたします。

○島尻クールジャパン政略担当大臣 本日は、大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

このアドバイザリーボードの会合は、クールジャパン戦略推進会議で、委員を務めていただいております、民間有識者の皆様に、クールジャパン官民連携プラットフォームの運営に当たって、引き続きアドバイスをいただくためのものでございます。

クールジャパン官民連携プラットフォーム、これはおかげさまで、昨年12月に設立をいたしましたけれども、これによって、官民の連携を促すための場が用意されたと思っております。今後は、この連携を促進するために、今月、開催されます、アニメジャパンとの連携を皮切りに、マッチングするためのイベントの開催、あるいはクールジャパンの情報発信拠点に関する分科会の設置などを考えてまいります。

今後、このプラットフォームが、クールジャパン戦略を進める上での中心として、機能するよう取り組んでいきたいと思っておりますので、有識者の皆様方におかれましては、引き続き御意見、御助力を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

次に、世耕内閣官房副長官より、御挨拶を頂戴します。世耕副長官、よろしくお願い申し上げます。

○世耕内閣官房副長官 本日は、大変お忙しいところ、有識者の皆さんにお集まりいただきまして、ありがとうございます。

昨年、クールジャパン戦略官民共同イニシアティブを取りまとめていただきまして、それを受けて、クールジャパン官民連携プラットフォームが、立ち上がったところでありませぬけれども、このプラットフォームを軸に、アクションをつくり上げていかなければいけません。クールジャパン戦略とは、民間主体の取り組みを、あくまでも民間主体でやっていただき、政府が後押しをすることで、盛り上げていくという点が重要だと思っております。

官民連携プラットフォームを中心として、クールジャパンに取り組んでいくに当たって、

民間の方々を巻き込むためには、このプラットフォームで、これまでの政府の取り組みにはない、新しいことに取り組んでいただいて、それを国民に対して、わかりやすく発信をすることで、このプラットフォームに参加をすると、何か新しいことができるのではないかと、期待感をつくっていく、醸成していくということが、重要だと思っております。

アドバイザーボードの皆さんには、引き続きお知恵をいただき、一緒にクールジャパンを盛り上げていきたいと思っておりますので、御協力をよろしく申し上げます。本日は、ありがとうございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 それでは、きょうは議題が2つございまして、議題の2つの説明の後、意見交換をさせていただきたいと思っております。

まず初めに、クールジャパン戦略官民協働イニシアティブ、この推進会議で、まとめました、フォローアップをやらせていただきたいと思います。

最初に事務局から、政府の取り組み状況全体を説明しまして、その後、外務省から、ジャパン・ハウスについて、補足的に御説明してもらいたいと思っております。

それでは、まず事務局から、お願いします。

○増田内閣官房知財事務局次長 それでは、お配りしてございます、資料1をご覧くださいと思います。まず最初に、クールジャパン関連予算について、御説明をさせていただきたいと思います。

1 ページ目をご覧ください。クールジャパン関連予算の平成27年度補正予算でございます。こちらは、107億円を頂戴いたしました。下に枠で囲ってございますが、こちらは、例えばビジット・ジャパン関連事業とかで、42億円ございますが、その内数として、クールジャパン関連がございますけれども、具体的な数字で、記述するのは難しいものですから、これは107億円とは別で、プラスアルファこれがあるということになってございます。

2 ページ目をご覧くださいまして、こちらは、28年度政府予算案ということで、現在、国会で、審議をいただいているものでございますけれども、28年度は、376億円を計上してございます。括弧書きは、昨年度の27年度予算でございまして、それに比べますと、23億円プラスということでございます。

内訳は、一般会計と特別会計がございまして、一般会計が206億円、特別会計が170億円となつてございまして、一般会計の206億円の内訳は、こちらに代表的なものが書いてございます。補正予算と同じく内数となっているものが、さらでございます。特別会計は、クールジャパン機構への出資として、170億円でございます。

3 ページ以降に、それぞれの事業の細かい説明がございまして、時間の関係上、説明は割愛させていただきます。

次に、資料2をご覧くださいと思います。これは昨年のクールジャパン戦略官民協働イニシアティブの中に、記述されてございます、アクションプラン、これのフォローア

ップシートでございます。それぞれの施策、これまでどのように取り組んでいるか、今後の取り組みはどうなるかというものを、表にまとめたものでございまして、項目が1-1から32までございます。

これも後ほど、ご覧いただきたいと思いますが、資料2（別添）というものが、別途ございますけれども、こちらに、項目だけ、一覧にしております。関係省庁も書いてございますので、これも御参考にしていただければと思います。

次に、資料3をご覧いただきたいと思いますが、クールジャパンアンバサダーとクールジャパン地域プロデューサーのリスト化というものを、今、作業を進めてございまして、ここにございますとおり、それぞれ登録候補者が、現在36名と22名ございます。これは第一弾ということで、4月の新年度から開始をしたいと考えてございます。

事務方からの説明は、以上でございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 それでは、外務省、お願いいたします。

○下川外務省大臣官房国際文化交流審議官 外務省でございます。資料4をご覧いただければと思います。ジャパン・ハウスの活動に関しましての現在の基本的な準備状況等につきまして、御説明を申し上げたいと思います。

ジャパン・ハウスは、世界のより多くの人びとに対しまして、多様な日本の魅力で、世界を豊かにする日本として、表現、発信することによりまして、日本への深い理解と共感を広げていくための海外拠点事業として、考えられているものでございます。

日本を表現する意欲と才能のある方々が、あそこで何かを発信したい、ないしは発信できるという足がかりにできる発信拠点といたしまして、2017年に、ロンドン、ロサンゼルス、サンパウロのふさわしい立地に、創設・実施する予定でございます。

このような発信を通じまして、さらなる知的交流、あらたなビジネスチャンスの創出、より多くの地方へのインバウンドの誘引、こういったものをつくり出しまして、世界と日本との間のさまざまな新しい循環を作り出すことを、目指しているものでございます。

ジャパン・ハウスという事業は、各都市それぞれにおきまして、外務省から業務委託を受けた民間企業が設置するジャパン・ハウス事務局が、具体的事業を企画、立案することになっています。これが資料4の1枚目の紙でございますが、したがって、本事業を受託しました民間企業が、現地のプロをそれぞれ館長、事務局長、企画局長として雇用いたしまして、事務局を整備する一方、この事務局を現地の有識者で構成される運営委員会が監督しまして、事務局の立案する事業計画を承認する、そういうような仕組みになってございます。

他方で、ばらばらで活動してもいけませんので、これはもともと東京におきまして、3都市の事業のコンセプト及び事業方針につきまして、事業全体の総合プロデューサーが、有識者諮問会議や関係省庁機関との連絡調整会議からの助言を得ながら、立案いたしまして、3都市の各々の事務局に、提示することとなっております。この提示を間もなく3月の下旬に、行なう予定でございます。

以上のような体制のもとで、昨年7月に、国内の有識者諮問会議を設置いたしまして、続いて9月に、現地に運営委員会を設置したところでございます。

それぞれの委員会の参加のメンバーのリストは、1枚めくっていただきまして、ジャパン・ハウス（仮称）有識者諮問会議メンバーリスト、各地におけるジャパン・ハウス運営委員会のメンバーということで提示されているところでございます。それと同時に、先ほど申し上げました全体のコンセプトについて打ち出す総合プロデューサーといたしまして、昨年6月に企画競争を実施いたしまして、事業全体のプランニングを行う総合プロデューサーとしまして、日本デザインセンターの原研哉氏が就任したところでございます。

こういった経緯も踏まえまして、今、各地におけます事業実施主体の契約を進めているところでございまして、ロサンゼルスにつきましましては、全米で唯一の日系民間テレビ局UTB（ユナイテッド・テレビジョン・ブロードキャスティング・システム）と、教育事業であるキャンパスハリウッドを運営しておりますESP社（エレクトリック・サウンズ・プロダクト社）です。

サンパウロにつきましましては大手広告代理店電通、ロンドンにおきましては国際的な総合不動産サービス企業でありますJLL（ジョーンズ・ラング・ラサール）社と順次契約を締結したところでございます。

以上の計画に基づきまして、最後にいろいろなタイムラインでございしますが、1ページめくっていただいた裏のところがございますような計画で、今、3都市で、既に事務局が立ち上がっているところでございます。それにそれぞれの都市に企画局長ですとか、事務局長というものを指名いたしまして、例えばサンパウロでは、建築、デザイン、設計を隈研吾氏が行うとともに、企画局長及びPR局長には、ブラジルで有名なキュレーターや国内最大の雑誌出版社の編集長経験者である人材が、就任しているところでございます。

また、ロサンゼルスにおきましては、建築・デザイン・設計を谷川じゅんじ氏が監修しまして、レストランには、本日も御出席いただいております楠本修二郎氏のカフェ・カンパニーに担当をしていただきまして、現地では、南カリフォルニア大学の日本研究センター所長を事務局に迎えるなど、現地のニーズを十分に反映した形で、国内の優れたコンテンツを発信していくための体制整備を進めているところでございます。ロンドンにつきましましては、今、契約最終調整中でございますけれども、世界的に有名な雑誌編集長を事業企画PRに起用することなどを検討しているところでございます。

施設につきましても、ロンドン、ロサンゼルス、サンパウロ、いずれの都市におきましても、市内一等地に要件を満たす物件を確保したところでございまして、現在、プロの外部専門家によりまして、内装設計等も準備を進めておるところでございしますが、2017年の開館に向けて、作業を行っているところでございまして、いずれの物件におきましても、展示スペース、シアター機能のある多目的スペース、物販、レストラン、書籍/ウェブ/カフェ等の機能を備えることになる予定でございます。レストランや物販スペースにつきましても、楠本さまを初めとした海外経験の豊富な事業者が、テナントとして、内定してい

るところでございます。

開館まで、まだ1年程度あるわけでございますが、この期間は、ウェブサイトを立て上げて、ジャパン・ハウスに関する情報発信を実施すると同時に、各都市におきまして、イベントを開催いたしまして、ジャパン・ハウスの広報や潜在的協力者の巻き込みを図るということを予定しているところでございます。

ジャパン・ハウスが使うコンテンツにつきましては、日本の文化、食、テクノロジー、地方の魅力等を全方位的に取り上げる予定でございます。具体的な事業計画につきましては、現在、現地の事務局の企画局等を中心に策定されているところでございます。

先ほど申し上げましたように、この全体のコンセプトにつきましては、3月末にジャパン・ハウスの総合プロデューサーであります、原研哉氏や楠本氏から、シンポジウム形式において、お話をいただく機会を設けることを予定しているところでございまして、御関心のある方には、ぜひ御出席をいただきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

それでは、次に民間プロジェクトの状況について、御説明していただきたいと思っております。今年コンテンツを軸とした取り組みについて、大石様と菊池様からお願いいたします。

○大石委員 大石でございます。

コンテンツといいましても、私の担当していたところは、音楽の分野でして、まとめの中でも、音楽業界一体となった、海外進出の後押しをするエージェント組織をつくらうということのまとめでありました。その当時は、コンテンツといいましても、音楽を中心と考えると、ライブコンテンツを海外で展開しようというアイデアを持っていたのです。

皆さん御存じのとおり、インバウンドで、海外の観光客の方がどんどんふえてきて、海外に行くまでもないのではないかという議論と、音楽業界というのは、先般も申し上げましたように、いろいろな利益構造の団体が集まっていますので、1個になってまとまるというのは、手間がかかります。今、全団体が参加している、一般財団法人音楽産業文化振興財団で、協議はしているのですが、もう少し時間が必要という報告が事務方から挙がってきています。

エージェント機能というものにその議論の中に、経済的な負担があるという議論もあつたりするのですが、きょう、ジャパン・ハウス様の御提案があったような、例えばイベントを実施するとか、既にある海外のイベントに出る、他分野の産業様と一緒にイベントをつくるなどという場面で、そういうエージェント機能というものが、動くようなスタンバイは、もう構築できていると私は思っております。

音楽だけではなく、アニメだとか、漫画、既に世界に広がっているコンテンツは、あるとは思いますが、この資料5-1にも出ていますが、コンテンツの海外流通の基盤整備事業という中に、ライセンス円滑化のためのデータベースの整備というものがあつて、これに関して、この後、菊池さんから説明していただきますが、我々の音楽のコン

テンツでさえも、どこに所属しているのか、誰の持ち物なのだろうかということが、海外から見えないのです。それを見える化しようという事業を、中村伊知哉先生が主導されていらっしゃるCiPの中で、今、研究をしています。

そこら辺を菊池さんからお願いします。

○菊池委員 菊池でございます。

CiP、コンテンツ・イノベーション・プログラムという協議会がございまして、お手元の資料ですと、資料5-1になります。資料5-1の5ページにイラストがございまして、これをご覧いただければと思います。

東京都竹芝地区が、昨年3月19日に国家戦略特区の特定事業として、認定いただいたものでございまして、音楽、放送、多様なコンテンツの関係者、団体、企業などの五十数社が集まって、既に拠点の構築に向かっております。建物自体は、この3年後、オリンピックの前年ということですが、実際の研究開発ですとか、ビジネスマッチング、セミナーなどということを通じて、活動を続けてございます。シンポジウムなどでは、アドバイザーボードからは、夏野先生に御参加いただいたり、多様な有識者の皆様の御参画をいただき、進めております。

この中で、先ほど大石さんからありましたような、データベースの連携といったことを考えてございます。アーティストコモンズという名称で、アーティストを起点に、コードを振りまして、それをもって、データベースの連携をし、海外のユーザー、B to B、B to Cを含めて、見える化をしておるところでございまして、知財本部、総務省さん、経産省さん等の御指導をいただき、進めておるところでございます。

実際の拠点の開発とアーティストコモンズといいますのは、昨年のクールジャパン戦略会議の報告書に沿ったものでございますので、具体的な事業の実施ということを進めておるところでございます。

以上でございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

それでは、食を軸とした取り組みと地方・観光を軸とした取り組みで、2つをまとめて、楠本さんと渡邊さんに、お願いをしたいと思います。

○楠本委員 皆さん、こんにちは。楠本です。食のことを考えれば考えるほど、地域のことと連動性が非常に高くなり、渡邊さんと二人三脚で、いろんなことを今、進めております。

前回、クールジャパンの会議で、食の分野ということで、まず御報告申し上げますと、農業から流通、食品、外食に至るまで、食にまつわる分野というのは、各産業が非常に縦割りといいますか、それぞれ存在している。これを一堂に会して、日本の食を盛り上げていく、そういったプラットフォームといいますか、チームを組成できないのかということが、一番の問題意識でございました。

そういったことで、きょう、まとめております、資料5-2の3ページで、去年の11月

に森ビルさん、六本木ヒルズと、去年については、ようやく2カ所同時開催で、丸の内行幸通りでも、TOKYO HARVESTのイベントを実施させていただくことができました。いろいろなブランドの地域製品のイベントがあるのですけれども、それを海外に向けて、日本の食のブランドとして、秋は日本に行こう、ビジット・ジャパンとなれるように、より一層TOKYO HARVEST、JAPAN HARVESTという形で、盛り上げていきたいと思っております。

来場者数も非常に増えているのですが、一方で、運営の方法について、初年度ということもあって、いろいろ課題も浮き彫りになってまいりましたので、その点、農林水産省の皆様とぜひ事前にすり合わせをしながら、今年以降の取り組みの方法ということ、もう一段階、二段階、戦略的に、これはTOKYO HARVESTに限らず、日本の食をどういうふうに関内盛で盛り上げていくかということについては、早目の議論をしていきたいと思っておりますが、ぜひ御協力をよろしくお願い申し上げます。

復興庁主催で、東の食の実行会議を、3月にやらせていただきました。震災から5年になりましたが、東北というのは、生産者さん、NPOの方々もいろいろ入っていらっしゃるのですけれども、横のつながりがばらばらで、その連携を5年間で図ってまいりましたが、非常に強いチームができたのではないかと思います。食に携わる方々、プライドも高いですし、地域に対する思いも高くお持ちでいらっしゃるのです、そこをつなぎながら、地域ブランディングも考えていくということの意義を、大変強く感じております。

プレスリリースを発表しまして、東北の食のビジョンということも、発表させていただきましたが、これは背景としては、日本の食が、世界にどういうふうに関献していくのか、世界の食、平和、産業と、日本の食文化というのは、どう関連を関っていくのかということ、もうちょっと一段階レイヤーを上げて、世界に発信するという動きを戦略的にぜひやりたいと思っております、こちらのお手持ちの資料5-2、日本版ガストロノミー・イニシアチブ構想案というものをまとめさせていただきました。

前回のクールジャパンの会議でも、食の大学院構想ということ、私は言わせていただきましたけれども、大学をいきなりつくるとするのは、ハードルはあるかと思っておりますが、7ページに書いておりますように、今、ハーバード大学というと、MBA、経営で有名な大学であります、今、デザイン学部の中に、ガストロノミーサイエンスということ、掲げまして、ハーバードといえ、食の分野で、世界を引っ張っております。

以前から御案内をしております、アメリカCIAのスクールも、MITと連動する形で、より一層食のレイヤーを上げて、戦略的にアメリカもヨーロッパも取り組んできているという事例がございますので、今、日本の食はチャンスなのですが、それをもとに、一段階アカデミアを上げて、その戦略性を上げていくということの必然性と必要性に、迫られているのではないかと問題意識を持っておりますので、今、やろうとしていること、取り組んでいることについて、渡邊さんからも御説明させていただければと思っております。

○渡邊委員 渡邊です。よろしく申し上げます。

楠本さんと一緒に、食・観光地域ということで、この数カ月間、ガストロノミー分科会

というものを立ち上げまして、プラットフォームに参加されております、辻調理専門学校さんであるとか、料理人の方々とともに、議論を重ねてまいりました。

ガストロノミーという言葉を使わせていただきますが、かつてはグルメという意味だったと思うのですけれども、今、食文化産業そのものという言い方になっていますので、それをキーワードに進めていきます。

ページをめくっていただきますと、先ほどインバウンドのお話もありましたが、私たちがガストロノミーに注目した背景は、インバウンド産業です。現在、14億人強の国際観光客というのが、世界にいるわけなのですが、日本には、そのうちの2,000万人ぐらいが来ています。国内だけでも、3兆5,000億円ほど市場が固まっています、毎年5,000億ずつ、市場が地べたで上がってきている。

食だけでも、既に6,420億円ぐらいの市場に固まっています、外需獲得ということで、ここに非常に着目をしています。その下をご覧くださいますと、来る理由は、御存じのとおり、食が一番の理由になっておりまして、質、量ともに、日本国内の食産業は、世界に誇るものである。

最近ですと、その次の下のページなのですが、ガストロノミー・ディプロマシーということで、地方自治体などが、料理人や生産者、企業、行政と組みながら、さまざまな取り組みをして、成功を収めている。先ほどの楠本さんからの東の食の実行会議、TOKYO HARVESTを含めなのですが、例えば私がかかわっているのが、佐賀県庁のARITA×NOBU PROJECTとか、鶴岡市のユネスコ食文化創造都市です。

ただし、下の構造的なてこ入れが必要なのではないかと。例えば5年間で、農業事業者は60万人も減っております。漁業事業者も4万人も減っている。さまざまな省庁が、食関連の政策を講じられていると思うのですが、総合戦略がないというところが、1つの課題なのではないかと着目をしました。

ページをめくっていただきまして、せっかくこういった内閣官房のプラットフォームができたということですので、経済波及効果の大きいガストロノミー分野と、プラス成長する世界の国際観光市場を1つ一括で考えるような、新たなローカル・クールジャパン政策をつくれないうかということ、ガストロノミー立国、総合戦略なるものを、うまく民間からでも、政策提言できないだろうか。かつ各省庁で、今、用意をされている政策の横串化と強化といったところで、何か情報共有できないだろうかと考えました。

別の視点なのですが、その下をご覧くださいますと、2014年に欧州議会では、ガストロノミー・イニシアチブというものが生まれて、フランス・ドイツ・イタリア・北欧三国でも、それぞれイニシアチブが発信されております。かなり日本の立ち位置も明確にして、そういったものも歓迎されるのではないかと思います。

ページをめくっていただきまして、ここは政策提言というよりは、既に民民で私たちも含めて、行なっているものなのですが、例えば農水省でも、食堂の研修事業がかなり推進されていると思いますが、日本の地域自体がコンテンツなのかという発想に立ちまして、



地域をフィールドミュージアムにしたような、目的型ガストロノミー・インバウンドができないだろうかということで、既にこの写真は、先月、鶴岡市で行ってきたものですが、人気があって、産業に落とし込める。そういったものの地の拠点化といったものも、同時に進められないだろうかといったことで、現在もガストロノミー分科会、定期的に集まっておりますが、そういったものをきちんとした形で、提言していきたいということは、近況報告になります。

以上です。

○楠本委員 1つだけ補足させていただきたいのですが、私は、スペインのバルセロナに出店計画を今、準備しており、私のパートナーが、今、バルセロナに行っています。バルセロナで、サッカー選手のある方が、うどん屋をやっています。とても人気のうどん屋さんです。ところが、3日前に連絡が来まして、残念ながらうどん屋を取り下げますということだそうです。

どうということかという、行政府からうどんという名前を使うなど、命令が来たそうのごさいます。恐らくどなたかが、うどんという商標を、スペイン、あるいはバルセロナで取得をされています。スペインの方からすると、うどんというものが、これだけ日本の伝統的なもので、なおかつ一般的なものなのを知らないで、取得されていたのかもしれませんが、これはまるでスペイン人に対して、日本がパエリアというなど言っているようなものであります。

中国でも、同じような事例がいっぱいありました。これは中国だけと思ったら、オーストラリアは、和牛というものを申請しております。したがって、こういったブランドも含めた知財、伝統的なネーミングをこれは個人では、決して守り切れないので、ぜひこういったイニシアチブを活用して、国としても保全をする。決して囲い込むのではなくて、悪用されないという基盤をつくるということ、ぜひ御提案したいと思います。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

とりあえず次の議題にいきまして、今の点も含め、意見交換を最後にさせていただきたいと思いますが、プラットフォームの今後の活動内容でございますけれども、マッチングフォーラムの開催に向けた活動とクールジャパンの拠点構築についての検討について、まず事務局から御説明をしたいと思います。

○増田内閣官房知財事務局次長 それでは、資料6をご覧くださいと思います。クールジャパン官民連携プラットフォームの今後の活動についてという資料でございます。

1ページ目でございますけれども、このプラットフォームにおきましては、連携によるビジネスプロジェクトの創出を目的として、今年10月に、マッチングフォーラムを開催することを予定しております。それが前段階で、いろいろなことをやろうと考えてございまして、例えば3月には、Anime Japan2016で、ビジネスセミナーをやったり、4月では、沖縄国際映画祭に参加をするということで、島尻大臣にも、この両者について、御参加していただく予定でございます。

3月のAnime Japanでのビジネスセミナーの詳細な資料、2ページ目についてでございますが、これは国内最大のアニメ総合イベントでございます、それに相乗りする形で、クールジャパンビジネスセミナーを開催するというものでございます。

2点目の拠点構築に関する分科会についてでございますが、これは3ページ目をご覧くださいと思います。昨年取りまとめました、クールジャパン戦略官民協働イニシアティブの中でも、枠囲みの中ですが、拠点（ハブ）の構築を目指して、民間で取り組みを行うことを前提に、関係府省が連携して、これを支援すると書いてございます。現在、民間でも、計画中のプロジェクトがあると承知してございますけれども、これを念頭に置いた上で、クールジャパン拠点の構築とそのネットワーク化など、より効果的な情報発信を可能とするような方策を検討したいということで、このプラットフォームの分科会に、クールジャパン拠点構築分科会という、これは仮称でございますけれども、これを立ち上げたいと考えてございます。メンバーは10名程度ということで、スケジュール感としては、4月に立ち上げて、年央に中間取りまとめ、年末に最終とりまとめを行えるというようなことで、進めたいと考えてございます。

以上でございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 意見交換の前に、共同会長会社であります、パナソニックさんから展示会の御紹介がありますので、パナソニックさん、お願いいたします。

○倉澤委員 初めまして、倉澤と申します。

私どもは、新橋駅と汐留駅との間に、パナソニック東京汐留ビルというのがございまして、24階建てのビルでございます、これは13年前にオープンしたのですが、その4階に、非常に小さな美術館がございます。余り知られていないのですが、100坪当たりの非常に狭い美術館がございます。ここにジョルジュ・ルオーという、フランスの画家の絵を230点ほどばかり持ちまして、やっているのでございますが、それ以外に年間4件、展覧会をやっております。きょうは、そこに年4回やっているのですが、現在は、キュー王立植物園所蔵のボタニカル・アートの展覧会を今、やっておるのですが、きょう、御出席のクライン・ダイサム・アーキテクトさんが、会場デザインをしていただきまして、やっております。

その後、1ページ目でございますように、REVALUE NIPPON PROJECT展、中田英寿さんが出会った日本工芸ということで、元サッカー日本代表の中田英寿さんが、現役引退後、やっている活動の昔から受け継いできています、伝統工芸、文化技術の可能性を再発見しようといった活動がございます。この展覧会を4月9日～6月5日までやろうということで、やっております。

2ページ目は、そこでございますように、専門家で御抽出いたしました、アドバイザーボードが、コラボレーターと工芸家を選出いたしまして、陶磁器、和紙、竹、漆、型紙といった、素材の作品を選定いたしまして、今回、三十数点の作品を一堂に会して、やっていきたいと思いますということでございます。

3ページ目は、陶磁器で、これは植葉さん、奈良さん、中田さんのコラボレーションに

よりもす鍋、UFO鍋です。

4 ページ目は、和紙でできましたシロクマで、これは大体230センチぐらいの非常に大きなものでございますけれども、この和紙の作品です。

5 ページ目が、これは竹でございますして、移動式の2畳の茶室でございますが、こういった竹の作品です。

6 ページ目が、型紙でございますして、これは兼子様、妹島様、長谷川様による作品です。

7 ページ目が、漆でございますして、山村様の作品です。

最後に、きょう、御出席の田川欣哉様のコラボレーションの作品、TakeFinoで、これらを展示しまして、6月5日まで、展覧をする予定でございます。

近いところがございますので、ぜひ御来訪いただければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

それでは、ここから自由な意見交換に移りたいと思います。一応5時半を目途としておりますので、あと40分ございます。今までの御説明等を踏まえまして、自由に御発言いただければと思います。挙手の上、御発言をお願いいたします。

高島市長、お願いします。

○高島委員 まず報告をさせていただきたいのですが、去年のクールジャパン戦略推進会議の中で、平前副大臣から、日本津々浦々のクールジャパンを吸い上げるために、地方の拠点都市が、中心となって、広域的にクールジャパンをコーディネートできる仕組みづくり、そのために拠点といえ、具体的には政令指定都市が、その役割を担っていただけないかという、そういったことがございまして、政令指定市長会の中に、観光・MICE・クールジャパン戦略プロジェクトというものを設置いたしました。

具体的には、各政令市周辺の各地域に眠る、クールジャパンコンテンツの発信のためのダイレクトに政府という形ではなくて、間を取り持つ形で、広域的なコーディネートのやり方、情報発信などのそういった役割を背負う仕組みになっていこう。こうしたことがプロジェクトの中で話し合われました。

具体的には2つで、そのコーディネートできる仕組みづくりに関する内容の提言と、地方映像コンテンツの海外展開に関する提言というもので、2つこれは、松本副大臣、経産省の北村政務官等にも、提言をさせていただいたところでございます。

進捗の御報告でした。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ほかにございますか。

大石さん、どうぞ。

○大石委員 前回の推進会議でも、お話が出たのですけれども、ネット上での情報格差の部分について、どこまでどう進んでいるのかということ、どなたか御存じの方がいれば、教えてほしいのです。

我々は先ほどの説明で、音楽にアーティストにIDを振って、世界から見たときに、見える化をするということは、目指してはいるのですが、格差については、まだ今のところ、具体的なアイデアはありません。

音楽業界の中で、一部シンク・ミュージック・ジャパン (SYNC MUSIC JAPAN) といひまして、日本アーティストの活動情報を英語化して、それを外部から見てもらふようなものはあるのですが、それを満足に拡散するといふところまでは、まだ至っていません。音楽の業界から見ると、ネット上での拡散が、宣伝になり、広報になり、あわよくば例へばロンドンでライブをやってくれ！といふ依頼くるといふところまで、持ち込みたいといふことで、まずネット上での拡散を促進したいと思つております。

前回の会議で、この座組みでまとめてやりましようといふ話になつたような気がするのです。

やつたほうがいいといふ話です。言い方が悪かつたのです。やると決まつたわけではないです。

○横尾内閣官房知財事務局局長　うちのホームページを今、回収しようとしていまして、リンクを貼ることも含めて、各省でクールジャパン系のものは、幾つかあるのです。うちのホームページも、内閣府のホームページもあるのですが、4月1日から内閣府に移ることもあつて、回収をしなければいけないので、この機会に、もうちょっとワンストップになるようなホームページにして、リンクをはるような、それは考えています。

○大石委員　ジャパン・ハウスさんのホームページもできるといふお話も伺つて、これは全部リンクしていくのか、どうなのかとは思つております。

○横尾内閣官房知財事務局局長　リンクさせると考えております。

○大石委員　わかりました。ありがとうございます。

○梅澤委員　残念ながら多分政府のホームページに、ポータル機能もつていふのは、結果的に余りうまくいかないような気はしていて、結局、世界中のいろいろな類のインフルエンサーがおもしろいと思つて、拾つてくれて、そこからバズるかどうかといふ勝負なので、彼らは絶対政府広報などは見にきません。

そういうことを考えると、いろいろな情報をわかりやすい形で、並べておくといふことは、もちろんトライはしなければいけないものの、仕掛けは、民間側で相当世界のいろいろな文脈を讀めて、誰にどう仕掛けたら何がバズるかといふことを考えられる類のプロデューサーを、1人、あるいはチームで起用して、仕掛けにいかないと、大石さんがおっしゃられていることは、実現できないような気はします。

○大石委員　そうですね。そのようなまとめだつたと思つたのですけれども、どなたかが、どこかの分科会でやつてらっしゃらないですかといふ質問です。

○梅澤委員　今のところ、多分やつていないといふ答えです。

○田川委員　推進できたらいいですね。

○横尾内閣官房知財事務局局長　夏野さん、お願いします。

○夏野委員 1つ質問なのですけれども、参考資料は、クールジャパン関連イベントカレンダーというのがあるのですけれども、この右上に、クールジャパンのロゴが載っているのですが、このロゴを使えるイベントと使えないイベントというのは、どういう仕分けになっているのですか。

質問の趣旨からいうと、例えばこの中に、先ほどお話に出ていたTOKYO HARVESTはないではないですか。よくよく考えると、私がちょっと絡んでいるのですけれども、ニコニコ超会議とかも、クールジャパンだと思うのです。こういうせっかくプラットフォームができているので、何らかの基準で、このロゴを使っていいか、悪いかというのは、やったほうがいいと思うのですが、政府関係が入っていないイベントでも、クールジャパンに貢献しているようなものであれば、積極的にこのロゴを使っていってもらったほうがいいと思うのですけれども、この運用状況と広げて使えることができるのかどうかというのを、ぜひ教えていただきたい。

○増田内閣官房知財事務局次長 これは一応管理といいますか、内閣官房の知財事務局で、これを管理しております。なるべくこれは、クールジャパンに関係するところは、広く使っていただきたいと考えています。一応これは商標を観光庁の関連でとっております、そういった関係もあるものですから、申請をいただくと、こちらから使っていいというオーケーを出します。それは非常に広く使っていただきますので、別に政府は関係なくて、私どもがクールジャパンに関係があると思ったら、オーケーを出しますので、どんどん応募していただければと思っております。

○夏野委員 ちなみにそれは、ウェブで解決しますか。

○増田内閣官房知財事務局次長 紙でお願いします。

○夏野委員 何でこういうことを言い出すかという、結構こういう動きがあつて、例えばマイクロソフトのウィンドウズとかは、物すごく知財管理の厳しい会社なのですけれども、ウェブの申請だけで、ほぼ自由に使えます。そのかわりに、こういう形式で使えとか、こういう色を使えなど、そういうデザインコードがしっかり書いてあって、同じようなことが、JAVAというテクノロジーなども、JAVAを使っていけば、JAVAのロゴが使えるのですけれども、世界中からアクセスして、ホームページだけで、見本のダウンロードができて、正確に使えるようになっていて、画像データもいろんなもの、パターンが全部あるのです。

せっかくこれはクールジャパンなので、基本的に登録すれば、使えるという形で、ウェブで自動化してもいいのではないかという提案です。

○増田内閣官房知財事務局次長 そうですね。おっしゃるとおり、しっかりと改善をしたいと思います。

○横尾内閣官房知財事務局局長 高橋さん、お願いします。

○高橋委員 私もこのイベントカレンダーを見せていただきまして感じたことですが、皆様は日頃いろいろなイベントや展示会に参加されていて、隅っこに何かとても暇そうなブースが小さなコマであることに気付かれることもあるかと思えます。それは例えばその

地方の観光振興のためのブースであったりするわけですが、世界的なイベントに行くと、日本のクールジャパンを推進するようなブースが、ひょっとするとその規模で誰も立ち寄らないような場所にあったりしないかと。もしそうであれば、中途半端な形で何となくそこに参加し続けることに果たしてメリットはあるのかということ。

もう1つは、これだけの数のイベントがある中で、その幾つかは、世界中のそれにかかわる人たちが必ず出なければいけないようなイベントになっているという点です。

ちょうど先ほどうどんの話がありましたが、つい先日、携帯電話の国際ショーが行われたためバルセロナに行ってきました。あの地域に携帯電話産業の何か有力な企業があるかというところではなく、都市の観光としての魅力も含めて、ああいう大きなイベントを誘致され、世界中の大企業がそこに店を出しています。同じようなことが、例えば官で行われているイベントであったり、幾つかの分野においてもあると思っています。

しかし、例えば東京モーターショーが自動車関係の方にとってそういうイベントになっているかというところかと思えます。アニメであったり、食であったり、ひょっとすると将来的にはロボットであったり、そういう世界中の人たちが、必ず行かなくてはならないイベントが日本でも実施できるのではないかと思う一方、日本に住んでいながらも、例えばアニメに関連して、必ず行かなければいけないイベントというのはどれなのだろうと考えたときに、余りにもたくさんあり過ぎて、どれがそれなのか分からない。それらを何かうまい形で集約して、世界中の人たちが必ず日本に来て、そこに参加して、新しい情報を発信するような、そんな場ができれば、いろいろな形で強みが発揮できるのではないかと感じております。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

ほかにございますか。今の関連でも、別のことでも結構です。

松本担当副大臣、どうぞ。

○松本クールジャパン戦略担当副大臣 忘れないうちに、知財事務局に言うておくのですが、うどんの件、先ほどおっしゃっていただいたことを聞き流すということではなくて、そうなった経緯を徹底的に調べて、闘うことができるのか、できないのか、できないとしても、今後、そういうことが起こらないようにするためには、どうしたらいいかということについて、このプラットフォームに、報告をしてください。

そうでないと、皆さんがそれぞれのいろんな話をしたところで、また同じようなことが起こってしまう。情報共有ということが大切ですから、知財事務局に特にお願いをしておきます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 はい。

楠本さん、どうぞ。

○楠本委員 ありがとうございます。

食で世界にチャレンジする方は、個人で外に出る方ばかりなのです。こんなことが起きると、首を絞めなければいけない。首を絞めるというのは、ちょっと言葉がよくないです

が、大企業や中小企業とも違い、個人ですので、大変なことが起きているということだと思います。もしこれで何らかサポートができないということになりますと、彼は、アンチクールジャパンになってしまうのではないかということだと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○大角農林水産省食料産業局審議官 私どもの農水省の制度としては、御承知のとおり、地理的表示制度、GI制度というものをつくりまして、地域のいろんな特性と結びついた、伝統的な生産のものを保護していこうという制度を、昨年からつくりましたが、今国会で提出いただいている法案の改正の中で、それがお認めいただければ、諸外国と二国間の協定で、相互保護し合う。お互いにし合うという制度の改正を今、試みているというところでございます。

今のお話は、商標のお話ということでございまして、商標になりますと、関係各省との話となりますけれども、一般的には、いわゆる一般名称といわれているようなものについては、日本などであれば、商標としては、登録しないと、か、そういうような考え方になっております。

今、スペインのうどんというお話でございますので、その辺の事実関係は、どういう経緯だったのかにつきましては、関係部局と連携をしながら、しっかりと調べたいと思います。

○横尾内閣官房知財事務局局長 楠本さん、どうぞ。

○楠本委員 御承知おきかと思いますが、中国では、讃岐も使えませんし、日本の地域が、もう商標登録されています。それが有効かどうかは別として、アウェーで闘う以上は、裁判所は向こうということになりますので、そういう姿勢に出るとということ自体が、非常に脅威でありますので、その関係を取っ払うという、少なくとも政府、あるいは有識者会議としての姿勢というものを、しっかりと見せるべきだと思いますので、ぜひよろしくお願ひします。

○横尾内閣官房知財事務局局長 高橋さん、どうぞ。

○高橋委員 多分それは食だけに限らず広い分野で起きている問題で、日本とスペインだけにはとどまらないと思います。逆に日本が同様の加害側に立っているという案件もあるのかも知れません。食の一部にとどまらず、同様の案件が世界的にあるのかどうか、それを解決するような動きがあるのかどうか、あればそこでの解決を目指したほうがいいのではないかという気がいたしました。

○横尾内閣官房知財事務局局長 本件の担当が、きょう、この場にはいないので、あれなのですけれども、これは関係省庁と既に連携をして、連絡会議をして、何が対応できるのかということをやっけていまして、たまたま本件については、どうも解決されたようなのです。

今、彼から説明がありましたが、一般名称の場合には、商標の登録は、国際的にできないというのがそうなのですが、この問題は、常に起こり得る問題で、よく中国では、この問題がよく起こっています。したがって、日中の協議の枠組みで、まさに地名、青森りん

ごとかというのは、登録されているのがあって、そこは政府ベースでやっているケースもあります。本件の場合には、たしか2003年ぐらいで、相当前の段階で、登録をされているようなので、一般名称でなかった可能性もあるので、微妙なケースのようでもあります。

通常は、まさに日本もこれは加害者になり得るのですけれども、一般的なルールからすると、これらの個別に訴えて、落とすというのをやっていかないといけないので、それは特に中国では、そういうケースがたくさんあるので、やって落とす例もあります。ただ、個別に出てきた分野は、どこまでやれるのかというのは、今後、考えていかなければいけないテーマだと思っています。

○楠本委員 個人事業主は、アウェーの地で、訴えられて、法廷で闘うというのは、物理的に無理だと思うのです。ですので、例えば御提案ですけれども、皆さんお忙しいかと思うのですけれども、そういったことがあったときに、どこかに少なくとも問い合わせができる、日本の政府にこんな書面が届いてしまったのですけれども、これはどうすればいいのでしょうか、闘えるものなのでしょうかと、少なくとも私も相談にのれませんか、誰か、あるいはどういう部署かが、そういった相談窓口になれるような仕組みというのは、できないのでしょうか。

○横尾内閣官房知財事務局局長 それは在外公館に、知財の窓口と、JETROで、こういう相談は、受け付けています。本件の場合には、その相談の前に、ブログに書かれてしまったので、そちらが先だったのですけれども、相談していただければ、どうするというやりようがあると思います。

○楠本委員 わかりました。ありがとうございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ほかにございますか。

夏野さん、どうぞ。

○夏野委員 今のことに関連してなのですが、今、各企業は、ソーシャルリスニングというものを普通にやっております、どういうことかということ、自分の会社のこと、あるいは自分の会社の商品のこと、Facebook（フェイスブック）とか、twitter（ツイッター）で燃えているか、燃えていないかということ、常にリスニングするという、ソーシャルリスニングと言っているのですけれども、本件のような、このうどんの話は、私もtwitter（ツイッター）で知っていたのですけれども、多分楠本さんのtwitter（ツイッター）から来たのだと思うのですが、そういうクールジャパンに関するソーシャルリスニングをする制度とか、試みとかというのは、なかなか政府で対応するのは難しいのですけれども、政府こそ、海外でジャパンというのが、どういう切り口で、どこの国で、どんな話題になっているというのを、もしかしたら外務省さんもやられているのかもしれませんが、そういうことをやっていったほうがいいと思うのです。なので、このソーシャルリスニングというのは、ちょっと検討していただいて、何らかの仕組みの中に入れていくということ、やっていただくと、今の話などに引っかかってきます。

ちょっと気になっているのは、国会で例の日本死ねというブログのときに、国会議員の



先生方が、匿名なのだから、これはということをおっしゃったのですけれども、今、匿名のものにこそ、本質があるみたいところが、ネットの中にはあって、時代が20世紀と21世紀変わってきているので、匿名のものの中に、そういうネガティブな情報とか、ヒントというのがあるものも参考にしながら、政策をつくって行ったりしたほうが良いと思うので、ぜひソーシャルリスニングを検討していただければと思います。

○横尾内閣官房知財事務局局長 何か外務省でありますか。

○下川外務省大臣官房国際文化交流審議官 本件に関しましては、私どもまさにこのブログに出て、大使館に対して、この方に支援をすべきだという連絡が来まして、翌日、大使館とJETROで連絡をとって、JETROマドリッドから本人にアプローチして、事実関係を確認しました。ただ、たしかに非常に小さい事業主さんでもあって、法廷を準備して、法廷闘争を準備する余裕はないと話を受けていたと聞いております。弁護士の紹介とか、そういうことはできますということも、相談内容の一部だったと聞いております。

最終的にどういうふうには決着したのか、私は必ずしも聞いていないのですけれども、そういう形で、ブログに出ているような話というものは、大使館にもきますので、そういうものがあれば、できるだけ関係する部署につないで、アプローチするようには、努めているところでございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ほかにございますか。

梅澤さん、どうぞ。

○梅澤委員 全く別件の御報告と、お願いです。

政府の方々には、皆さんよく御存じだと思いますが、2月、3月に国家戦略特区区域諮問会議で、海外からの人材受け入れの議論がなされて、その中で、内閣官房の御尽力もあって、クールジャパンにかかわる外国人材の受入促進という大方針は、これは首相の口からお話をいただくところまではきました。私も2月の会議には、参加させていただいて、クールジャパンを代表させていただいて、我々としても必要だと思っているというインプットはさせていただいています。

大方針が出ているだけなので、今、例示として、ファッション・デザイン分野、あるいはアニメ分野、食分野という分野において、何らかのビザカバーをしていこうという、例示の記述はあるのですが、これは何も具体的にまだ決まっていない。これから先、恐らく法務省とそれぞれの管轄の官庁との議論の中で、具体的なガイドラインづくりをしていくという作業が、数カ月続くのだろうと想定をしています。理解が違っていたら、ぜひ御修正をいただきたいです。

我々民間側の皆様には、このガイドラインをどうつくるかで、生きるも死ぬも決まってしまうので、多分いろんな議論が、各論で起こると思うので、ぜひ割って入っていただいて、あるいは政府から照会があったときには、具体的にこんな事業者が、例えばインバウンドのニーズがあって、こういう形で、外国人のルールをつくって、雇用すれば、既存の業界とも、余り大きな軋轢にはならないし、実際のニーズに対応できるみ

たいな、実務的なアドバイスをどんどん政府にインプットをしていくというのは、我々がやっていかないと、抽象的なところで議論をしていると、結局予見可能性がなくて、今までどおり、運用で丸なのか、バツなのかわからない状態から、余り大きく改善しないような懸念はしているので、ぜひ皆様方に、御尽力をいただきたいと思います。

内閣官房からも、いろんな案件が出てきたときに、適切な方にどんどんボールを投げてくださいと思いますし、私も特区ワーキング・グループとは、密にやりとりをしているので、ワーキング・グループから、玉が飛んできたときには、皆様に振らせていただきますので、ぜひよろしくをお願いします。

○竹内経済産業省大臣官房審議官 経済産業省でございます。

ただいま、いただいた意見、基本的には理解が正しいと思っております。現在の計画では、国家戦略特区の改正法案の施行後1年以内に、留学ビザ、就労ビザについて、規制緩和をどこまでやるのかという方針を検討いたしまして、それを受けて、必要な措置を行うとなっております。

確かに今、例示を幾つかしておるところでして、ファッション・デザイン分野についていいますと、例えばこれまでは、ファッション・デザインで、学校で学んだ方が、就労はできるのですけれども、例えば理工学部を卒業して、デザインの職につこうとすると、難しかったというものもありますし、あるいはアニメの分野では、認可校を卒業して、専門士の資格をとる方は、留学ビザがとれるのですか、認可校以外は、そもそも留学ができなかったということもございます。

こういった分野については、緩和を考えたらどうか。これについて、現在、例示をしておりますので、その適用関係について、確かにわかりにくい。それが適用の場面で、問題を生みかねないという御懸念もありましたので、そのガイドラインも含めて、わかりやすい形で、関係者の方に説明できる、お示しできるようにしていこうということでございます。

これまで私どもとして、関係の業界の方々からニーズをお伺いして、こういうものは基本的に必要であろうというところは、例示しておりますが、それ以外についても、どういうものがニーズがあるのか、1年というスケジュールの中で、我々ではできるだけ早く、具体化をしていきたいと思っておりますし、その検討の中で、いろんな機会を通じて、皆様のお声をお聞きして、正しく反映されるように、しっかりしていきたいと思っておりますし、何よりも御指摘がありましたように、このガイドラインがわかりやすくないと、せっかく制度を緩和しても、使われない。あるいは間違えて誤解を生んだがために、うまくいかないということにならないように、今の御指摘は全く同感でございますので、政府としても、皆様のそういったことをしっかりお聞きして、取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

○梅澤委員 ありがとうございます。

政府の中で、起こりがちなことも、実際に今回も起こってきたことは、いろんな業界団体さんに、こういう声がクールジャパンから挙がってきているのだが、そういうニーズが

あるのかという質問をされて、業界団体側は、どちらかというところ、エスタブリッシュされた会社を中心なので、特にそういう話はありませんと返されて、管轄官庁から、そういう話があると聞いたのだが、業界に聞いてみたらなかったという答えが、特区ワーキング・グループに入ってくるというのが、何度かあったようです。

それは業界団体に公式に聞けばないという答えになるのだが、アクティブに動いて、例えばインバウンド需要を取り込もう、あるいは自社が海外展開をしていこうという野心を持った会社にとっては、そういうニーズはあります、そういうのが多分現実なので、そういう積極的な会社さん、事業者の声を拾いに行かない限りにおいては、具体的なニーズが出てこない、こういう分野が大変多いと思うのです。我々側からもそういうニーズが、こういう会社さんにはあるのですという話を、どんどん政府にインプットしていくと、多分これは具体的にここまでは緩和をしていきたいと思います、前向きな会話になっていくのかと思っています。

○横尾内閣官房知財事務局局長 楠本さん、どうぞ。

○楠本委員 ありがとうございます。

大変重要な流れだと思いますので、ぜひ進めていただきたいと私も賛成しております。

私は、外食の経営者の勉強会をやっております。40社近く参加していて、店舗数でいうと、2,000店舗ぐらいのものと勉強会をやっているのですけれども、そこでも議論をしました。そうしましたら、今、食の分野での話が出ていた、シェフの方々のそちらの緩和というのが、非常に歓迎されております。

一番話が多かったのは、ホールスタッフ人材なのです。ホールスタッフというところ、スキルがないウエイトレス、ウェーターと見られる向きが、今まで多かったのですが、今、日本のインバウンドを支えるのは、おもてなしという言葉があるように、日本人のお店の接客姿勢、これが評価されているということが、非常に大きいです。

その接客姿勢を学びたいということで、向こうの大学を出た子たち、留学生が、うちも海外のスタッフが、100人を超えているのですけれども、彼らは帰っていきます。帰って行ったときに、カフェ・カンパニーの仕事をやりたいという子が、非常に多いのです。そういうことはどういうことかというところ、ホール人材というのは、将来のマネジャー候補が多いのです。料理人というのは、ずっと料理人畑が多いのですが、マネジメント人材の候補者なのです。そうしますと、彼らが自国に帰ると、彼ら自身が、日本のファンとして、日本の食や日本の文化を広げたいものとして、ビジネスをやりたいという方々が、非常に多くいる、可能性が高いのです。

したがって、こういったモチベーションをうまく使って、日本の文化を広げていくというのは、クールジャパン戦略に足るのではないかと、私は思っています。ぜひホールスタッフの拡充も、よろしくお願ひしたいと思います。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

福原さん、どうぞ。

○福原委員 せっかくの機会なので、ちょっとお尋ねをしたいのですが、観光庁の方もいらっしゃるみたいなので、観光バスの件なのですけれども、今、中国からインバウンドで、毎週4万人送り込んでくる旅行社と、いろいろ話をしておりまして、彼らに新しいインバウンド向けのエンタテインメントのプロジェクトの立ち上げというプログラムを今、進めています。その中で、プログラムそのものは動いているのですが、きのう、中国の旅行者の方たちとミーティングをした中で、意外なところで、ボトルネックはあって、それは何かというと、観光バスなのです。

まず1つが、台数がない。なかなか臨機応変に手当てができない。特に都内に関しては、観光バスの乗り入れ規制のようなものがあって、乗り入れ場所の規制、駐停車の場所がない、そういうようなことが、ネックになって、今、夜の時間帯の観光客の方の移動ということ、真剣に考えているのですけれども、思いがけないところで、そういう議論になっておりまして、これは今、いろんな事故があって、観光バスが事故を起こして、観光バスに対するいろんな規制というのが、出てきているのがよくわかっているのですけれども、その延長線上で、いろんな観光バスの運行会社も、慎重になってきていて、すべからず同じ規制の中で、厳しい運行をしなければいけないという中で、観光バスの手当てに、苦慮しているという状況があるのですけれども、これは実際に、考えているどういう時間帯に、どのくらいの距離をどういう人たちを移動させなければいけないのかという、具体的な案があれば、これはそれをもって御相談に挙がらせていただければ、どういう対応をすればいいかという御指導をいただけますか。それともこれは業者マターですか。

○山田観光庁国際観光課海外旅行促進官 観光庁でございます。

観光バスの不足というのは、以前から問題になっておりまして、臨時営業区域の設定ですとか、そういったことで対応をしておりますけれども、まだまだ不十分なところがあるということかと思えます。

観光バスの規制の話につきましては、国土交通省内の自動車関連の部局が見ておりますので、一度そちらとも、話をする必要があると思えます。後ほどお話を伺えればと思えます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ほかにございますか。まだ御発言のない方で、お願いします。

○ダニーチュー委員 カルチャージャパンのダニーチューです。10月のマッチングフォーラムなのですけれども、これは何か定期的なイベントなのですか。あるいはオンラインの何かで、常にこういうシステムマッチングができるような仕組みとかは、ないのですか。

○横尾内閣官房知財事務局局長 どなたかお願いします。

○増田内閣官房知財事務局次長 このマッチングフォーラムは、私たちどもがプラットフォームを設立したときの構想として、大体、年2回程度開催するというのを念頭に置いて、やっております。総会は年1回、このマッチングフォーラムも年2回、私どもが主宰をしてやる。その間は、民間の主体としたイベントが、いろいろございますので、そちら

に相乗りといいますか、そういう形で、やってそこを埋めていくという、そういう考えで  
ございます。

○ダニーチャー委員 それでは、フォーラムのほうが大きなイベントで、その間に小さい  
イベントという感じなのですか。

○増田内閣官房知財事務局次長 大きさでいうと、必ずしもそうではないのですが、政府  
が主催してやるという観点からいいますと、今のような感じなのですが、間でやる民間主  
体のものは、大きさからでいえば、そちらが大きい部分もたくさんございます。例えば3  
月にやりますAnime Japan、これは日本で最大級のアニメイベントでございますし、そうい  
うものに、積極的に、私どもも関与させていただくという、そういう感じでやっていくつ  
もりでございます。

○ダニーチャー委員 なるほど。私なのですけれども、国内で、こちらの人間を使ってい  
るのですけれども、この接点のない業種の出会いというのは、私にとって、すごく重要な  
ことなのですが、例えば現在、国内で、お人形の服を縫製してくれる工場さんを、必死で  
探しているのです。今、やっとな九州だったりとかで、工場が見つかって、うちの人形が着  
る服をつくっていただいているのですけれども、そういう例えばこの3月のアニメですと、  
なかなか縫製と関係するような方たちと出会わないと思うのです。なので、定期的なイベ  
ントではなくて、常にこういうマッチングとかができるような仕組みとかがあると、いい  
と思います。例えばそういうウェブの掲示板だったりとか、そういうものがあるといいと  
思っています。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ちょっと考えます。

○松本クールジャパン戦略担当副大臣 横浜中華街というのがあって、あそこには中国の  
食材、お酒で、ないものはないといわれるほど、集まっている。新大久保も、あそこへ行  
くと、韓国の食材、飲み物が、全部集まっていて、手に入るわけです。

それでは、世界の主要都市に和食屋、寿司屋がいっぱいできてきました、ラーメン屋が  
幾つか出てきました、こう言われるのだけれども、そこへ行って、日本人が飲む日本酒と  
いうのは、国内で飲むのと比べてお金が何倍ぐらいかかるのだろう。また、そこにふんだ  
んに物があるのだろうかと考えると、横浜における中国の物の集積、新大久保のわずか何  
年間かでやり遂げた、韓国の物の集積を考えると、日本人は何て商売が下手なのだろうと  
いうふうに、私はいつも悩むわけです。

この間、日本酒のおいしいものばかりを集めて、きき酒会みたいなものが開かれていて、  
そこへ行ってみた。このお酒を何でロスに、ニューヨークに、持って行けないのだと考え  
たが、原因は物流なのです。ところが物流の世界の大手が、この壁をぶち壊してでもやろ  
うという情熱が見られないわけです。

そこで、外務省にも言ったのだけれども、新しい日本館をつくるところに、大きな冷蔵  
庫、冷凍庫を備えてもらえれば、日本中から皆が自分のところのお酒を10本ずつ集めて、  
そこへ、安くどんと持ち込むことができる。今、10本ずつ送ったら、送るだけで数万円か

かってしまうのです。

今、世界中に日本人が、何人ぐらい世界で働いていると思いますか。すごく多くの方が働いているのです。お父さん、お母さんだったら、ロンドンで働いている、ニューヨークで働いている息子に、今年、初めてとれた新米を送りたいと思うのが、普通なのです。一生懸命育てたリンゴを届けてやりたいと思うのが、普通なのです。日本を旅すると、どこでも、あの人にはお世話になったから何か送ろう、北海道にせっかく来たのだから、このカニを送っておこうと思えば、そこへ住所だけ書いて、お金を置けば、どこへでも送れるわけです。

そうだけれども、世界に向かっては、この国は、めちゃくちゃ物流コストが高く、時間がかかるのです。そこを渡邊さん、楠本さん、何とか解決をしてください。そのために、経産省に、どこにどうするから、ここのところの法律を変えてくれとか、これだけの予算がかかるから、そのうちの10分の1ぐらい補助金を出せとか、外務省に、ここの国とこれを交渉してくれとか、そういう具体的なところで、ぜひ考えてほしいです。

○渡邊委員 私も楠本さんと一緒に、ジャパン・ハウスのロサンゼルスにかかわらせていただいているのですが、まさにそう思っています、少なくとも、ジャパン・ハウスには、1,700ある蔵元さんの酒が、全部おけるぐらいのマネジメント体制がないといけないと思うのです。プラス例えば和牛も、167種類日本にあると思うのですが、それらがスムーズに入ってくるようにしないとけない。ノドグロが取れたら、ノドグロがスムーズに入るようにしなくてはけない。

そうやってきたときに、事務局が応援体制だけではなくて、企業マネジメント体制が、多分ないと、運営とかはだめなのです。それをぜひやりたいと思っているのです。なので、気をつけます。ぜひ外務省さんとも、協議をしながら、進めていきたいと思っております。

○松本クールジャパン戦略担当副大臣 よろしくお願ひします。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ほかにございますか。

クラインさん、どうぞ。

○アストリッド・クライン委員 きょうは特別に、食の話がいっぱいありまして、ここの参考資料も見て、アンバサダーに挙がっている方もデザインとファッションに関係する人がほぼいなくて、ずっと食という感じで、どこかそのデザインとファッションも忘れずに、日本の文化としてインバウンドの人たちのために、もうちょっと広めていかないとだめなのではないかと思ひます。

バスでくる方々はもちろん日本の食を食べるとか、日本茶を飲むのが1つの目的なのですが、あとは買物をするという感じなのですが、文化というところで、以前も言ひましたけれども、デザインについてもっと力をいれていければと思ひています。日本の工芸デザインは世界中が憧れているので、日本に来てそれについてのデザインミュージアムがあればいいと思ひます。また世界中で、日本の車が憧れを持たれていますが、ホンダ、日産、トヨタなど、車のミュージアムみたいなものはどこにもないのです。ドイツに行く

と、ちゃんとベンツのミュージアムがある、フォードのミュージアム、フォルクスワーゲンのミュージアムがある、しかもそれぞれが素敵なミュージアムなのです。世界的に有名な建築家によってデザインされたものなのです。

日本のファッションも、世界中から憧れられているものであり、着物の文化は日本にしかありません。着物の文化につながっているテキスタイルや、非常にユニークなデザインもいっぱいあるので、日本のファッションミュージアムもあるべきなのではないかと思えます。

日本はどんな国よりも、プリッカー賞いわゆる建築世界のノーベル賞を持っている建築家が多いので、何か具体的にどうしたらいいのか、あまりこちらには提案がないのですけれども、もっとそういうことをアピールするスポットとしてのミュージアムが、日本の文化を広げるために必要なのではないかと思います。

それが1つ目で、2つ目は報告だけなのですが、私たちクライン・ダイサム・アーキテクトは設計事務所の仕事以外で、ペチャクチャナイトも主催しているのですが、それを2020年のオリンピックに向けて、ペチャクチャの20枚×20秒ずつのフォーマットで、何か良い企画ができるように考えています。今、国内のペチャクチャナイトは全国で、25都市で動いているので、そのオーガナイザーの力をうまく使って、クリエイティブゲームズをやろうとしています。いろいろ準備があるのですが、これからクールジャパンのサポートもいただいて、具体的に来年から準備を始めたいと思います。ありがとうございます。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。ちょっと時間が過ぎてしまいました。

高橋さん、どうぞ。

○高橋委員 先ほど自分で発言しておいて支離滅裂だと思ひまして、クラインさんの発言を聞いて、何となく考えがまとまりました。結局バルセロナには、ガウディの建築があって、そこにテクノロジーのそういうイベントが誘致できている。

きょうの話で食が多すぎるのではないかという話がありましたけれども、恐らく食が目的になってしまうというところが課題で、それぞれのコンテンツが、目的でもあり手段でもある。食を目指して集まってきた人が、アニメを見る、テクノロジーを見る、同じことが相互に起こり合うような、そういうクールジャパンであってほしいと考えております。

○梅澤委員 クラインさんの問題提起で、このアンバサダーなのですが、もう一回、今のタイミングで、全委員にそれぞれの分野で、推薦したい人はいませんかと投げかけて、集約したらどうでしょう。そうすると、ほかの分野の方もいろいろ入ってくると思えます。

この後すぐにやっていただければ、皆さんフレッシュなので、問題意識を持って、多分取り組んでいただけるということです。

○楠本委員 きょうはすごく発言が多くなってしまって、申しわけないです。食は食だけ

ではないのは、このクールジャパン戦略の全体の根幹なので、食と音楽とか、先ほどの宮河さんのガンダムの話にしても、ガンダムがあって、アニメがあって、食があるとか、全部連動させるというところが、ここのプラットフォームの趣旨だと思っていますので、言葉足らずでしたけれども、食だけの話ではない発言をさせていただいたつもりでございました。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ほかにどうですか。

玉沖さん、よろしいですか。

○玉沖委員 質問なのですけれども、よろしいでしょうか。

前回お休みをして、一度休むとこんなにわからないというか、ついていけないのだと思って、相変わらずこの会議の進捗のスピーディーなすばらしさに、感銘を受けておりました。

質問ばかりなのですけれども、要望も含めてなのですが、2点ありまして、イベントカレンダーなのですけれども、イベントカレンダーがどこかにいつもアップされているものなのでしょうか。これはずっと更新をされていくのでしょうかというのが1点です。

これは私も勉強不足で申しわけなのですけれども、いいと思ったのが、自分のところと関係ない業界といますか、他業界の情報が入っているので、連携するときに、出店の参考になるので、とてもいいと思いました。これはどこかにまとまってアップされているのであれば、広く知らせるべきものだと拝見いたしました。

今もお話にあった、クールジャパンのアンバサダーと地域プロデューサーの件なのですけれども、アンバサダーには、居住地が海外の方もいらっしゃるのですが、日本語でのアプローチが可能かどうかというのを、ネットに掲示されるときに、ぜひお示しいただければ、外国が苦手な方もアプローチをしやすいのではないかと思います。

以上、2点です。ありがとうございました。

○増田内閣官房知財事務局次長 今回の項目について、お答えしたいと思いますが、イベントカレンダーは、常時、政府のクールジャパンの私どものホームページに、掲載してございます。ただ、政府のホームページは誰も見ないと言われてしまえば、それまでなのですが、ぜひそれぞれ異業種、あるいは異分野での連携に、活用していただければと思っております。適宜、更新もしてございますので、ぜひ御活用いただければと思います。

アンバサダーの件につきましては、大変いいサジェスションをいただきましたので、そういう方向で、やっていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○横尾内閣官房知財事務局局長 中川さん、どうですか。

○中川委員 きょう、いろいろ話を聞いていて、思ったことがすごくあって、勉強になると思って、ここにいるメンバーの方とここでお会いさせてもらったりして、いろいろクールジャパンのあたりは、知識がふえていっていると感じるのですけれども、私が実際に動いていて、周りの人は、クールジャパンは何も動きがないとか、何かしてもらえないということを言う人が、すごく多いのです。なので、ここにいる委員会のメンバーを中心に、



もっとうこういう会議室ではない場所でも、定期的にもっと集まって、話していくことが、すごく重要なのかと思いました。なので、楠本さんのお店をお借りして、一番私が年下なので、幹事は得意なので、このメンバープラス官民連携プラットフォームに参加されている団体、企業の方やさらにこれがクールジャパンを推進していきたいと思っている人たちとかを、もっとコミュニケーションをとらせることも重要と思うので、役所主導ではない、そういうこちらの民間サイドの主導として、そういうのは、きょう、出席していない亀井さんともやりたいと話していたので、亀井さんと私で幹事をやるので、集めていければいいのかと思ったりしました。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございます。

それでは、あとは、テイトクリストファーさんですか。

○テイトクリストファー委員 テイトクリストファーと申します。

最近、私のフェイスブックとか、ソーシャルメディアでは、10年間、日本にずっとおりまして、私の知り合いとか、友達が、急にジャパンに行きたいのだけれども、どうすればいいのだとか、たくさん意見をいただいております、我々が頑張った結果を実際に果たしているのではないかと考えていて、要は全世界の皆さんは、やっとな日本のほうに、見ている方もたくさん興味を持っていただいていると思うので、私の年代で、昭和63年の80年代のバブルとか、いろいろなもので盛り上がった若者がたくさんお金を持っていて、立派に生きていっているようになってきているし、石油が物すごく安くなっていると思うので、これはチャンスだと思いますので、ぜひとも皆さんとも協力して、日本のすばらしい魅力を引き出したいと思います。よろしくお願いします。

○横尾内閣官房知財事務局局長 あとは、大体全員、御発言いただきましたので、よろしゅうございますか。

それでは、時間が若干超過をいたしました、これで意見交換を終了させていただきたいと思います。

最後に、松本副大臣からお願いいたします。

○松本クールジャパン戦略担当副大臣 皆さん、今日も大変活発な御意見をいただいて、ありがとうございました。

クラインさんのお話にありました自動車メーカーのミュージアムの件、ミュージアム自体は日本の全ての自動車メーカーも持っているのですが、ベンツ、あるいはイタリアのフェラーリ等と比べると、外に向かってという姿勢が足りないと思われました。

以上です。皆さん、ありがとうございました。

○横尾内閣官房知財事務局局長 ありがとうございました。

きょうはいつもながら、大変楽しい議論をいただきまして、ありがとうございます。

先ほど梅澤さんからありました、アンバサダーの件は、とりあえずこれで一度やりませけれども、これは第一弾なので、追加をしたいと思っております。ぜひこの人はということ、むしろインプットいただければと思いますので、どうぞよろしくお話をしたいと

思います。

それでは、きょうのアドバイザリーボードの会合は、これで終了したいと思います。長時間にわたり、まことにありがとうございました。